

今後の青果物の品質管理について

令和5年1月26日
JA全農ちば 営農支援部
園芸部

ここ数年、12月から1月にかけてラニーニャ現象等の影響を受け、厳しい寒さが続いています。本年は10年に一度といわれる強烈な寒波の影響で、全国的に厳しい寒さや暴風、降雪による農作物への影響がより一層懸念されます。

24日に発表された気象庁による3か月予報（2～4月）では今後、降水量はほぼ平年並み、気温は平年並みか高くなる見込みとなっています。寒暖差が大きくなることにより、農作物の生育に影響を与えることが予想されますので、以下のような品質の低下には十分注意しましょう。

1. 「品質の低下」に注意！

寒暖差のある日が続くと、生理障害や凍害などを受けやすく、傷みが生じやすくなります。このため、実需者や消費者に届く段階で、葉茎菜類（キャベツ・ほうれんそう・レタス・ブロッコリー・ねぎ等）では、変色やとろけ、葉の黄変などが見受けられます。また、収穫時に正常に見えても、収穫後に品質の低下が急速に進む場合があります。

圃場の生育状況や出荷の段階で、その後の品質低下が懸念される場合は、生産者と現物を確認し、場合によっては試し切りを行う、出荷を控えるなど、選果選別に留意しましょう。



生理障害等



葉の黄化



内部の褐変

2. 「異物混入」にも注意！

近年は、実需者や消費者の「食の安全安心」への関心が非常に高まっています。「異物混入」はこれらのリスクの一つとして挙げられます。

生産者の皆さまは、出荷作業場を常に整理整頓し、家族や従業員とお互いに「声掛け」をするなど、出荷をする際に異物が混入しないように選果選別時は特に注意しましょう。

また、JA集出荷場においても異物混入リスクを軽減するため整理整頓や定期的な清掃を実施しましょう。

▶ (別紙参照) 安全な農作物生産の取組みについて ～異物混入防止～

安全な農作物生産の取組みについて

～異物混入防止～

1. 食の安全・安心について

昨今の消費者の食の安全安心への関心は非常に高く、新型コロナウイルスの拡大によってその傾向はさらに強まっていると考えられます。これらに対するリスク管理が求められる中、農作物の食の安全安心のリスクのひとつとして「異物混入」が挙げられます。異物混入は発生頻度の高いリスクでもありますので、収穫や出荷場面において未然防止に努めましょう。

2. 異物混入を防ぎましょう！

ア. ハサミや包丁など収穫・出荷時に使用する道具の混入に注意しましょう



使用する道具の片付ける場所を決めましょう



器具類には番号・色付けをしましょう

イ. 虫やタバコ・ペットの毛・ペンなどが出荷物に入り込まないようにしましょう
異物混入の中では「虫」・「タバコ」の混入事例が多くなっています！！

虫を作業場に入れないように網戸などで防ぎましょう



スマホの混入事例も増加中です
ポケットはチャック付を選びましょう



作業場での飲食・喫煙は避けましょう
場所を分けることができない場合は、「作業時間」と「休憩時間」など時間で区切り、都度片付けましょう



ウ. 出荷用の資材は清潔に保ちましょう

出荷用の段ボールなどにはカバーをかけてホコリが被らないようにしましょう。また、汚れてしまった資材は使用を避けましょう。



異物混入は気づかないところで発生してしまうことが多いです。
「入れない」ための予防を行いましょう！